

# 令和3年度第7回 神戸市学校給食委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和4年3月14日（月）10時00分～11時30分
- 2 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
- 3 出席委員 西村委員長、植村委員、小林委員、熊谷委員、池田委員、本條委員、竹森委員、古田委員

## 4 議 事

- ・ 令和3年度の学校給食の実施について
- ・ 学校給費の公会計化について
- ・ 中学校給食の全員喫食制への移行について
- ・ 小学校の給食施設について

## 【冒 頭】

### ○竹森学校支援部長

- ・ 昨年は中学校給食の全員喫食制への移行に向けた検討について議論させていただいた。本日は進捗状況を報告させていただく。
- ・ また、直近の状況として、給食費の公会計化、小学校の給食施設についても説明したい。少し長期的な視点をもって、どのように提供していくのかについてお知恵を貸していただきたい。

### ●委員長

- ・ 中学校給食については、昨年から7回の会議を開催し、全員喫食制への移行に向けた基本方針が策定されている。それに基づいて、学校給食センターの整備計画も進めていただいているところである。本日は、学校給食の直近の状況に関して、コロナ禍における課題やその対応状況、公会計化、小学校の給食施設等について、説明を伺ったうえで議論したい。

## 【議事要旨】

### ◇ 令和3年度の学校給食の実施について

（事務局より資料1について説明）

### ●委員長

- ・ コロナ禍での食育の取り組みについて、黙食をしないといけない中で、子どもたちの様子はどうだったのか伺いたい。

### ○事務局

- ・ 黙食のため、静かにおとなしく食べている印象ではあるが、そういった状況においても、子どもたちの好きな音楽を流したり、学校放送を流したりするなど、学校では工夫を行っている。

### ●委員長

- ・ 静かに食べて終わりというだけではなく、リラックスできるような時間を作っているということだと思う。

### ●委員

- ・ 食品ロスの削減については、食材の寄贈先や数量、相手方がいつどのように使用したのか等の

記録をとることも必要だと思う。

●委員

- ・現在は、どの食品をどこに寄贈したかについては記録をしているが、相手方がどう使用したかまでは記録をしていない。

●委員長

- ・相手方とは信頼関係があるため、確認すれば実態はわかるということを担保しているということか。

●委員

- ・そうである。

●委員

- ・補足であるが、他の自治体では給食時間を14分間に制限しているという報道があった。15分以上マスクを外すと濃厚接触者と認定される事があることが理由と聞いているが、神戸市ではそのようなことは一切ない。

◇ 学校給食費の公会計化について

(事務局より資料2について説明)

●委員

- ・公会計という言葉にあまりなじみがないので、どういう意味なのか教えていただきたい。

○事務局

- ・公会計とは、市会の承認を得て執行していく公的な予算である。それと対比して、学校徴収金のような準公費というものがあり、準公費から公会計に移行することを公会計化という。
- ・準公費については学校長の代わりに事務局が会計事務を行うという権限はないが、公会計に移行することで、会計事務を事務局が行うことが可能となる。その結果、教職員の負担軽減につながるかと考えている。

●委員

- ・了解した。

●委員長

- ・公会計化に移行すれば、公的な予算になるので市会の審議を受けることになるのか。

○事務局

- ・そのとおりである。

●委員長

- ・学校現場の負担軽減につながるものである。従来通りの支出の利便性が担保され、学校現場が使いやすいような形で市会の審議を受けることとなれば、透明化を図ることができる。

●委員

- ・現在、生肉の発注を学校で行っているが、その事務がなくなると大変ありがたい。

●委員長

- ・公会計化に移行すれば、未納者への対応については事務局で対象者が把握できるのか。また、そういった情報は学校現場にフィードバックされるのか伺いたい。支払が滞っているということは何かご家庭の事情があって、子どもにも影響が出ている可能性がある。学校現場の先生方

はそういった子どもたちへの目配りもあろうかと思うが、そういった未納の情報の取扱いはどういう形になるのか。

#### ○事務局

- ・徴収事務は事務局で行うため、学校から見えない仕様のシステムが多いが、生活環境、家庭環境を把握するために、例えば校長先生など限られた方に見て頂くというのも検討の中に入れていたと思う。
- ・未納者に対する徴収事務を事務局が行っていくうえで、学校現場との連携は必須である。しっかりと学校と相談しながら対応していく必要があると思う。

#### ◇ 中学校給食の全員喫食制への移行について

(事務局より資料3について説明)

##### ●委員

- ・中学校給食が全員喫食制に移行した際に、主食の量の調整が可能になるのか確認したい。

#### ○事務局

- ・現在のランチボックス方式では量の調整は難しいが、全員喫食制に移行した時には、小学校と同様に食缶で提供するため、量の調整が可能となる。また、全員喫食制に移行するまでの間についても、温かく、量の調整もできる給食として、主菜を食缶で提供していく取り組みを進めたい。

##### ●委員

- ・現在、主菜を食缶で提供しているということだが、配膳時間は確保されているのか。

#### ○事務局

- ・これまでに実施結果では、給食時間内に喫食できた学校もあったが、昼食時間を超えてしまう学校もあるなど様々である。検討しながら進めている。

##### ●委員長

- ・上手くいった事例を共有すれば、各校の参考になると思う。

##### ●委員

- ・「参考資料2 神戸市学校給食センター整備計画」について、給食センターの配送エリア以外の区については、民間事業者の給食センターから給食を配送する予定であると記載されている。民間事業者の状況を教えてほしい。

#### ○事務局

- ・令和3年4月に実施した民間事業者へのサウンディング調査の結果を踏まえ、給食センターの配送エリア以外の区については、民間事業者からの提供が可能と考えている。

##### ●委員長

- ・「参考資料2 神戸市学校給食センター整備計画」の事業手法について、費用の比較が記載されているが、資材や人件費がこの先も高騰していく可能性がある。いつ時点の数字であるのか明記している方が良いのではないか。
- ・物価上昇によって、費用が想定よりも必要になる可能性があるが、生徒たちに温かい給食を早く提供したいという気持ちがある中での話なので、随時、チェックをしながら対応を考えていく必要がある。

○事務局

- ・資料の数字は、計画を策定した令和4年1月時点のものである。給食センターの事業者を公募する際には事業費を精査したい。

●委員長

- ・食器の下に敷くランチョンマットは生徒に持参していただく想定か。

○事務局

- ・生徒に持参していただく想定をしている。現状の中学校給食でも箸は持参していただいている。

●委員

- ・生徒が箸を持参するのであれば、ランチョンマットの持参はそこまで負担ではないと思う。

○事務局

- ・既に小学校ではランチョンマットを持参しているので、中学校でも同様に持参することについて、それほど違和感はないと思っている。

●委員長

- ・SDGsではないが、箸の持参などがエコの考え方のきっかけになるかも知れない。

●委員

- ・配膳するときは中学校でもエプロンをつけるのか。

○事務局

- ・給食着については、現在検討中である。家庭科の授業で作ったエプロンを付ける自治体もあるし、小学校と同じような割烹着を着用する自治体もある。

●委員長

- ・給食着は学校で用意するのか。それとも個人で用意するのか。クリーニングはどうするのか。

○事務局

- ・現在、主菜の食缶による提供の際に使用しているのは、使い捨てのエプロンである。全員喫食制に移行した時には、どういった給食着にするのか、またその運用についてはこれから決めていくことになる。

●委員

- ・小学校では当番の子が持って帰って、家庭で洗っている。

●委員長

- ・年齢的に難しい年頃でもあり、色々と現場のご意見を聞いてもらって、ご家庭の負担が少なく安全を保てるような方法を考えていく必要がある。

●委員

- ・牛乳は選択制か。

○事務局

- ・現在の中学校給食は選択制としている。アレルギーの対応もあるため、現時点で選択制を見直す予定はない。食育や栄養価の問題もあるので、学校や家庭と連携しながら取り組んでいく。

●委員長

- ・牛乳を持ち帰ることは可能か。

○事務局

- ・衛生上の問題があり、持ち帰りは認めていない。

## ◇ 小学校の給食施設について

(事務局より資料4について説明)

### ● 委員長

- ・かなりの数の学校施設が老朽化していて、なんとかしていかないといけない。順番に効率よくエリアを決めながら改築を進めていくやり方もあるが、一方で子どもたちの人口動態がどうなるかという問題もある。2つはリンクしているので、両方を見ながら考えていかなければならない。また、子どもたちが増えているエリアもある。この辺もコントロールできるものではなく、色々考えて転居されていることなので難しい。一発で答えが出る問題ではないが、老朽化は年々進んでおり、先送りするわけにはいかない課題である。

### ● 委員

- ・小学校の共同調理場は、北共同調理場と垂水共同調理場とあり、今回整備を計画している中学校の給食センターと場所が近い。小学校は老朽化する一方で、中学校は新設となる。児童数も減少していく中で、例えば将来的に一緒に作れるようになるとか、そういう想定ではないのか。

### ○ 事務局

- ・給食センターの建設予定地が小学校の共同調理場の近くになったのは偶然である。中学校の給食センターの候補地については一定の面積が必要であり、色々検討した結果、現在の2ヶ所を選定した経緯がある。

### ● 委員

- ・配送エリアについても小中連動していると思う。給食センターから配送するエリアと民間デリバリー等で配送するエリア、小中同じような地域になると思うが、それは小学校も、中学校の全員喫食に向けて同じような形で配送していくといったシステムを考えているのか。

### ○ 事務局

- ・現時点でそういったことは考えていない。垂水小学校については、近くに共同調理場があるため、余力を活用できないかという考えである。また、港島学園については、校舎の一体化整備のスケジュールが中学校給食の全員喫食制の開始時期と重なることが分かった。中央区の中学校は民間デリバリー方式による提供を予定していることから、小学校の児童にも中学生と同じ給食を提供し、9年間、同じものを食べるのが望ましいという考えであり、個別の学校事情に応じて検討した結果である。春日野小学校については、北共同調理場からは少し距離があるため、近隣で余力がある小学校がないか検討する予定である。

### ● 委員

- ・小学校と中学校は別の考えということで、たまたま重なっている部分があるということか。

### ○ 事務局

- ・中学校給食については、全員喫食制への移行に向けて1日あたり約3万7千食を確保する必要がある。給食センターの整備は必要な調理体制を確保するためのものである。
- ・小学校給食については、衛生的で安全な給食を安定的に供給していくというのが最も大事な点である。その中で施設の老朽化という課題があるが、中学校給食の検討とは別の軸だと思う。

### ● 委員

- ・今の内容を考えていくと、例えば小学校を民間デリバリー方式に変えていくという話は、中学

校でさえ確保が難しいとなると、小学生はもっと数が多いので、同じように民間デリバリー方式で実施していくのは現状難しいということか。

#### ○事務局

- ・小学校は教員を合わせると8万人以上となる。民間デリバリー方式は、昨年のサウンディング調査の結果で1日あたり最大1万7千食から2万食だった。それ以上に提供していくのは課題があると思う。

#### ●委員

- ・小学校に関しては、食数を確保しようとする、自校調理方式で賄っているところを再整備して新しく使えるようにするか、給食センターを新たに整備するしか選択肢がないということか。

#### ●委員

- ・非常に的確なご指摘である。今後色んなパターンが考えられると思う。民間デリバリー方式は中学校の方でなかなか数の確保が難しいが、将来的なことを考えると中学校も今後生徒数が減ってくるはずであり、民間デリバリー方式も余力が出てくるし、給食センターも同様である。
- ・大事なことは今回、中学校給食の全員喫食制で食缶方式に替えるということで、小学校とほぼ同じ給食内容となる。今後色々と柔軟に物事が考えやすくなるのではと思っている。

#### ●委員

- ・学校も統合が進んで、母校をなくしたくないという意見もある中で、文科省でも1校に12~18クラスが標準だという意見が出ている。それは給食も一緒だと思っている。自校調理方式を大事にして再整備したけれども、5年後にその調理場を潰すとなったら勿体ない。将来的によく考えたうえで、自校調理方式ありきの考えをやめて、柔軟に考えていく必要がある。無駄な税金を使わないのがこれから大事だと思っているので、そのように進めて頂けたらと思う。

#### ●委員

- ・食材調達をしている立場から言うと、現在の小学校給食だけでも、自校調理方式が146校で、共同調理場2つ、合計約150ヶ所に食材を配送する必要がある。約150ヶ所に配送してもらうと言うと、少し躊躇される業者もいる。今はしっかりと食材を配送してもらっているが、配送先の数が多いということは参入障壁になるかもしれない。少なくなれば、食材調達業者が参入しやすくなるのではないか。

#### ●委員

- ・中学校給食の北部給食センター、西部給食センターと、着々と準備されているが、運営は公募して民間委託になるのではと思うが、その際、例えば、神戸市の食品産業を育成するというか、給食分野に神戸市の業者が入るような形が取り入れられないかと思う。

#### ●委員長

- ・今回、事務局からいろんな話があったが、中学校給食については全員喫食制に向けて動いている。また、コロナ禍においても色々と検討しながら対応いただいているようで、ほっとしているところである。小学校施設の老朽化については避けては通れない。子どもたちの人口減少の問題とどう向き合っていくかだと思う。
- ・次回も、さまざまな情報を共有させていただいて、給食が楽しくおいしくて良かったと子どもたちに思ってもらえるようにするために、貴重なご意見を賜ればと思う。